

## M ガードはコロナ感染症の予防や治療に役立つ

8月20日のお知らせでダウン症とコロナワクチンについて述べた。

ダウン症はコロナ感染症に罹り易く重症化しやすいのでコロナワクチンは推奨されるというものであった。

ではなぜダウン症は感染しやすく重症化しやすいのかについて情報を得た。

コロナウイルスが肺の細胞に侵入するとき、肺細胞の表面にある ACE-2 と TMPRSS2 という二つのレセプター（受容体）を介して細胞に入り込む。これらのレセプターをコードする遺伝子は 21 番染色体上に位置している。従って、21 トリソミーを持つダウン症ではレセプターが多くコロナウイルスに感染しやすいと考えられている。

ここで M ガードの登場となる。

M ガードの主成分であるヘスペリジンが、コロナウイルスが ACE-2, TMPRSS2 を介して細胞に侵入するのをブロックする働きが明らかになった。簡単に言えば M ガードがコロナウイルスの感染を防ぐというのである。

更に、ヘスペリジンは炎症性サイトカインの産生を抑え、細胞性免疫を増加させる働きもあるという。コロナ感染症では細胞性免疫力をあげることで、必要以上の炎症性サイトカインの暴走（サイトカインストーム、サイトカインの嵐）を防ぐことが、感染予防と重症化予防になるのである。

M ガードの投与はダウン症の認知機能を改善させる目的で今回の臨床試験も行うが、その M ガードがコロナ感染症の予防や治療に役立つという情報は、コロナ感染症に罹り易いダウン症にとっては予想もしなかった朗報なのでここに掲載することにした。

このような M ガードの働きはコロナ感染症に限らず、インフルエンザや他の感染症でも有効なので、様々な感染症に罹り易いダウン症にとっては有難いことである。